



福井大学教育学部
附属義務教育学校

No. 01

令和3年4月12日

学校だより

令和3年度のスタートにあたって ～新たな取り組みへ～

校長 北 典 子

新型コロナウイルス感染拡大警報が発令され、未だに終息のきざしが見えない中、9日には入学式を無事に執り行うことができました。元気いっぱい明るい顔の1年生と、新たな仲間とスタートをきる期待と緊張感に満ちた顔の7年生。教職員一同、1日も早く、お子さまが学校生活に溶け込み、爽やかな挨拶が校舎内外にひびき合うことを願っています。今後、コロナ感染症対策を行うにあたり、学校生活や行事等で制限や縮小を余儀なくされることもあるかと思えます。細心の注意を払いながら、子どもたちの学びを保証するために努めて参ります。各ご家庭においても、毎日の検温等の健康観察、手洗いやマスク着用の慣行を重ねてお願いするとともに、登下校送迎のマナーへのご協力をお願い申し上げます。

さて、早いもので、義務教育学校として開校して4年が過ぎ、5年目がスタートします。附属小学校と附属中学校の両校が、長年築き上げてきた学校文化を基盤としながらも、一つの学校組織としてのつながりを強化し、9年間を見据えた新たな教育課程を研究開発して編成することが求められています。開校以来、新領域の社会創生プロジェクトをはじめ、全教科の授業でプロジェクト型の協働探究の学びを実施してきました。基礎基本となる知識や技能の習得と、子ども主体の探究活動を軸に、試行錯誤を重ねながらその歩みを伝え合い、次の活動に生かしていく。新たに得た知見と学びの体験から、自らの**思考力**（深く考える力）と**実践力**（自分自身と社会の未来を切り拓くために発揮される力）を培うことを目標としています。変化が激しく、未知の課題に臨機応変に対応できる力が求められる将来に向けて、実社会で活用できる力、さらには社会を創る力を子どもたちに育むことは不可欠だと考えるからです。

コロナ禍の中、世の中全体のデジタル化、オンライン化が大きく促進されました。本校ではすでに、5年生からの教科担任制を先取りして取り組んでいますが、2022年度より「小学校での教科担任制」導入する指針を文科省は発表しています。また、PISA2015の結果を踏まえて、OECDのアンドレアス・シュライヒャー教育スキル局長は、「日本の教育には過去の学びと現在の学びを結び付けたり、複数の教科を横断的に学んだりする戦略が必要だ」と指摘しています。

こうした社会の流れを受けて教育改革が進む中、本年度、次の3点に注力して教育環境の整備と教育活動の充実に取り組むたいと思います。

- GIGA スクール構想による一人一台端末環境での学習
- 5年生からの教科担任制を一層推進し、学びのつながりを明確化
- 全教科での前期児童と後期生徒との学びの交流の推進

ご存じのように、主体的に学びに取り組む態度は、生まれながらに人間誰もが持つ能力と言われています。子どもは、一人一人恵まれた力を持っているのです。そして、子どもが満足度や自己肯定感が高いと感じるのは、「自分で決めたとき」という調査結果もあります。「なぜ?」、「どうして?」の思いから、「触りたい」、「知りたい」といった「～したい」気持ちが広がっていきます。こうした子どもの学びの本質を大切にしながら、1年生から9年生までの子どもたちの成長を見守り、発達や状況に応じた指導と支援の充実をめざして、チーム一丸となって全力で取り組んで参ります。

保護者のみなさま、今後とも、本校の教育活動に変わらぬご理解とご支援をよろしく申し上げます。

